

会派視察・研修報告書

会派名 自民クラブ

代表者名 城處裕二

1 日 に ち	令和4年 3月 1日 (火)
2 視 察 先	第28回建築・建材展2022について
3 参 加 者	吉田企貴、玉置真一、山田徹、城處裕二
4 調査・研修の テーマ	多治見市美濃焼タイル振興協議会の建築・建材展出展状況について
5 主な内容	『希望あふれる未来を育むタイル』 「セラミックタイル美濃2022」 ・各出展者の出展ブース - バリエーションのより広がったモザイクタイル - 空間提案のブース - 床タイル - 内外装タイル
6 所感、提言事項、課題等	【議員氏名】 吉田企貴 2年ぶりの会場開催となった、本年の建築・建材展は、全体的に出展企業が縮小傾向の中、美濃焼タイルメーカー、商社が多数参加していた。建築・建材展は新たな市場開拓の場として、重要な商品アピールの場であり、各出展者の会社スタイルのPRの場である。各出展ブースは趣向を凝らしより洗練された展示であった。内装材や床材にスポットを当てたブースも多く、石材質の大判タイルで、600角を超えるサイズのものにインクジェットでプリントを施したタイルは、素人目には石材かタイルかの判別は難しいほどに精巧であった。今後も潮流の一つになると考えられる。 この建築・建材展での他業界の出展を見てもあらゆる素材との競争がますます激化する中で如何にビジネスチャンスを獲得していくかが重要であると感じた。 【議員氏名】 玉置真一 令和4年3月1日、東京ビッグサイト東展示棟で開催された第28回建築・建材展2022、多治見市美濃焼タイル振興協議会ブースを中心に視察した。2022年はタイル名称統一百周年でもある。多治見市は全国都道府県別のタイルの生産額トップシェア、一大生産地であり、地域の

6 所感、提言事項、課題等

作業場などで幼少期よりタイルを身近に感じ、居住空間にも外壁、台所、浴槽など常にタイルに触れる生活であった。タイル・イコール モザイクのイメージが強かったが、建材展では、現在の建築デザイン、ニーズにマッチした比較的大きなサイズが多く展示されていた。タイルは建材として経年劣化による色彩の変化が少ないなど優れた部分がある一方、外壁への貼り付け工程で多く用いられたモルタル等の素材が長年の浸食等によりはがれやすいイメージが有った。近年は軽量タイル、接着剤の改良、進化、乾式工法など耐久性は格段に良くなった事が展示内容より確認することが出来た。成型技術進化によりデザイン面でも様々な形状を作る事が出来る様になった。カラーに関しても従来の釉薬発色によるものに加え大理石調なものなど、建物のコンセプトに合った素晴らしい建材だと再認識するとともに、技術と進化を実感することが出来た。現在建設中のプラティ多治見をはじめ、今後建設される公共施設等にもタイルを多く取り入れられることを願っております。近年生産量は減少傾向にあるが、大切な地場産業として今後も動向を注視してまいります。

【議員氏名】 山田徹

1922 年にタイルに名称が統一され、今年が 100 年目となるため記念事業を展開されていた。桜をイメージしたロゴ、そして 100 年を記念したロゴも制作され多くの方々へアピールもされていた。今回の建築建材展では、より使いやすく設置過程が短縮される工法の説明や、駐車場の地面にも使える大型なタイル、室内壁面やキッチン水回りにも大理石風なプリントが出来る大型タイルの展示もあった。今後、市所有施設の建て替え時に利用するべきではないかと考える

【議員氏名】 城處裕二

コロナ感染症の影響により、2 年ぶりの会場開催となった、『セラミックタイル美濃 2022』。多治見市美濃焼タイル振興協会からのご案内を頂き、議員として初めて視察させていただきました。外装用タイルの新しい施工法やデザイン性の優れたタイル、絵画を模したモザイクタイル、大理石の様な大判の床用タイルなどを拝見し、業界の努力と熱意を感じることが出来ました。

写真



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。